



北海道大学

安全講習会 第一部

高圧ガスボンベの取り扱い、
液化ガスの性質・危険性について

第一部 内容

I. 高圧ガスボンベの取り扱い

1. ガスボンベの概要
2. 運搬方法
3. 使用方法
4. 保管方法

II. 低温寒剤の危険性

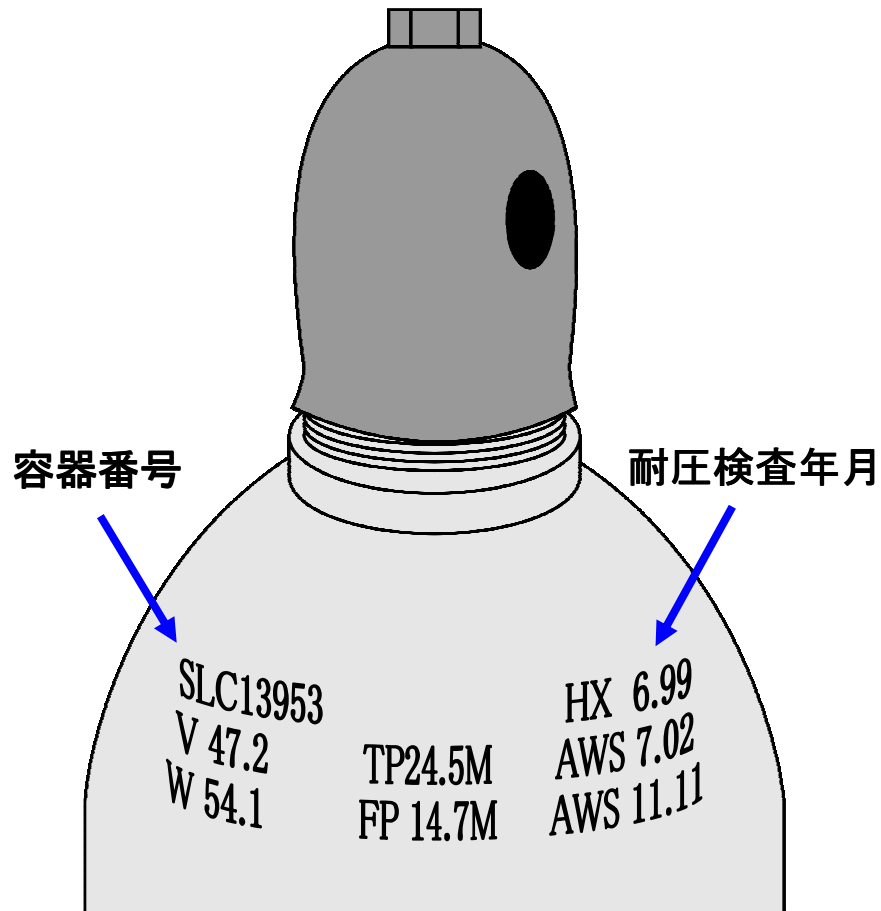
1. 低温液化ガスの特徴
2. 極低温による危険性
3. 爆発による危険性
4. 酸素欠乏による危険性

III. 液体窒素容器の取り扱い

1. 容器構造
2. 運搬方法
3. 利用方法
4. 保管方法



I-1 ガスボンベの概要



【色でわかるガスの種類】

■ 水素	■ 酸素
■ アセチレン	■ 液化炭酸
■ 液化塩素	□ 液化アンモニア
■ その他	

【刻印からわかる情報】

W : 空重量

V : 内容積

TP : 耐圧試験圧力

FP : 最高充填圧力

容器番号

耐圧検査年月



I-2 高圧ガスボンベの運搬

運搬車の使用

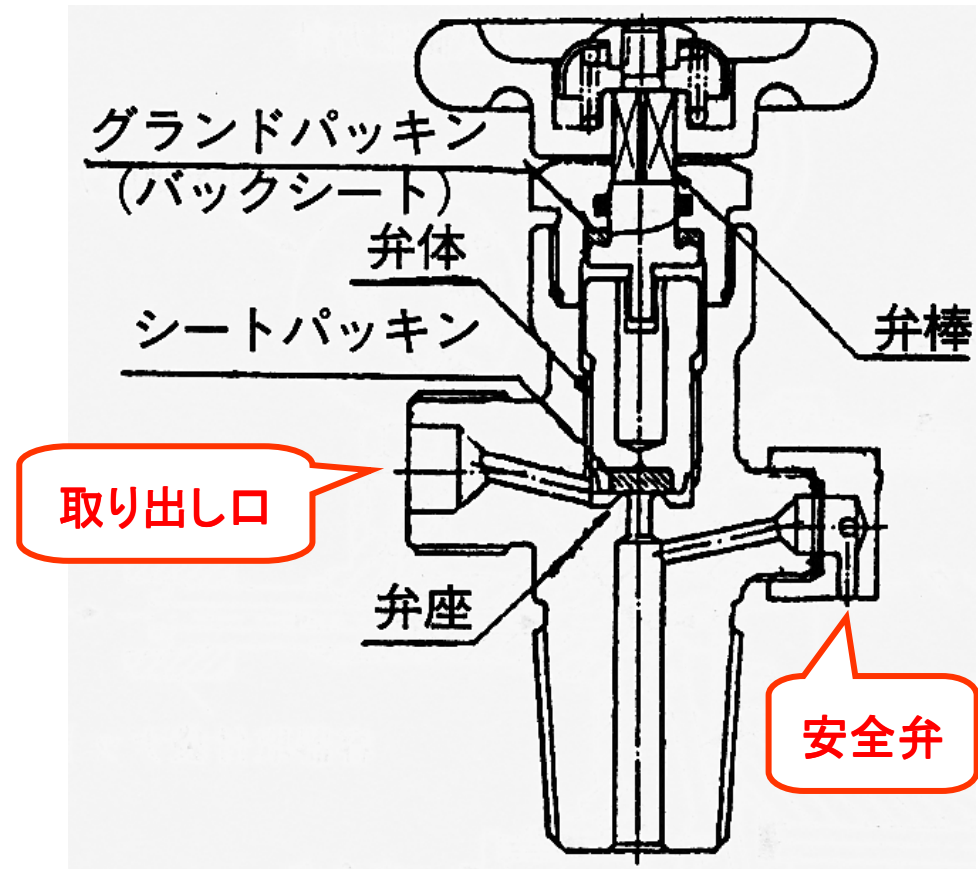
安全靴着用

保護キャップの着用

☆ボンベは首が弱点！



弱点



バックシート式バルブの断面図

(北海道大学安全衛生委員会 安全の手引きより引用)



I-3 高圧ガスボンベの使用①

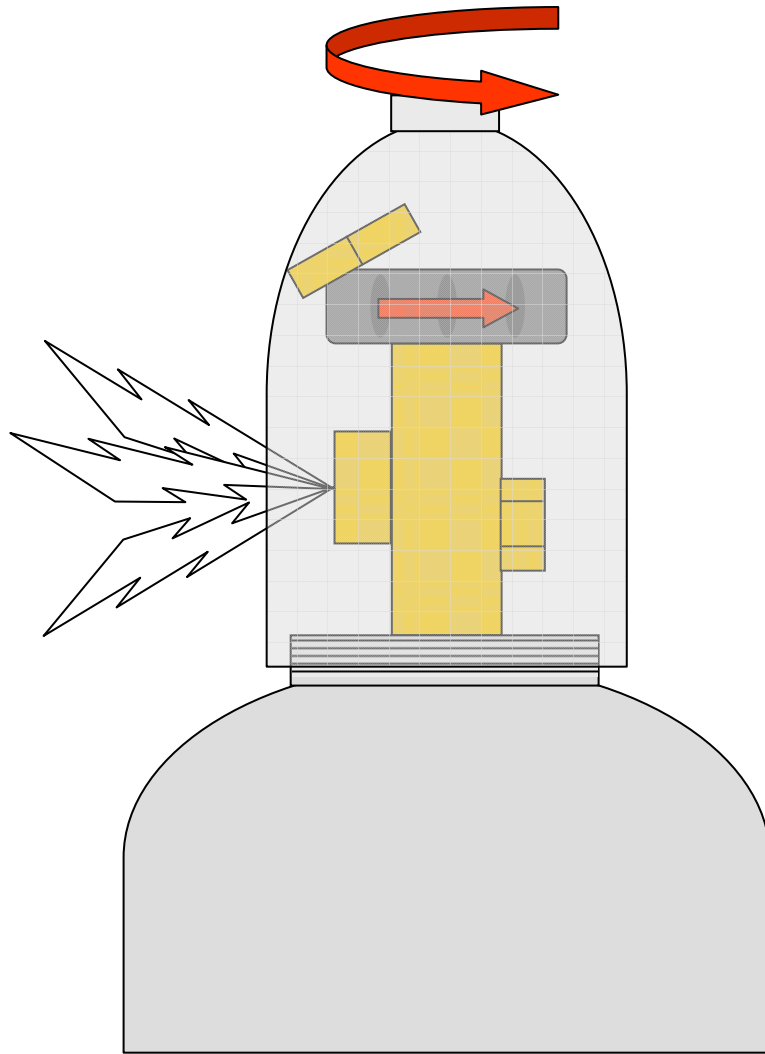


1. 圧力調整器を接続する
☆可燃性ガス・ヘリウムは左ねじ
2. 調整ハンドルを低圧側(左巻)一杯に回す
3. ボンベの元弁を開ける
4. 接続部に漏れが無ければ調整ハンドルをゆっくり高圧側(右巻)に回し、二次圧を調整する
5. 使用後はボンベの元弁から閉めて残圧を抜いた上で調整器を外す

回転方向が記されていない器具もあるので要注意



I-3 高圧ガスポンベの使用②



【2008年某大学における漏洩事故】

ポンベの保護キャップを外そうとしたところ、容器バルブのハンドルが共回りしてメタンガスが噴出した。研究棟からの避難指示が出され、人的被害は無かった。

バルブハンドルの上に乗せたままのアウトレットキャップが、保護キャップとバルブハンドルの間に挟まったことが原因である。



I-4 高圧ガスボンベの保管①



スタンドに上下2箇所
で固定
風通しのよい涼しい場所(40度以下)
火気厳禁



可燃性ガスと酸素は分ける



I-4 高圧ガスボンベの保管②



高圧ガス保安協会 事故概要報告より引用

【保管中のガスボンベが破裂！！】

事業所屋外の容器置場に保管していた分析用の窒素容器が破裂し、付近の住宅の窓ガラス、ブロック塀等が損傷した。

長期間保管していたボンベの腐食が進行したことが原因である。

長年放置されたボンベはありませんか？



Ⅱ－1 低温液化ガスの特徴

低温液化ガスの物性

液体窒素 : 分子量28、沸点77K

液体ヘリウム : 分子量4、沸点4K

極低温である ⇒ 凍傷・脆性破壊の危険

気体と液体の体積比が大きい

密閉容器内で膨張 ⇒ 爆発の危険

室内で膨張 ⇒ 酸素欠乏の危険



Ⅱ－2 極低温による危険性① 凍傷

<対策>

ぬれた手で寒剤を扱わない

蒸発ガスも冷たいので注意

断熱性のある手袋の着用(軍手不可)

保護メガネの着用

<凍傷になったら>

その部位を温水(約35℃)に浸す。

目に入ったら水で洗って病院へ



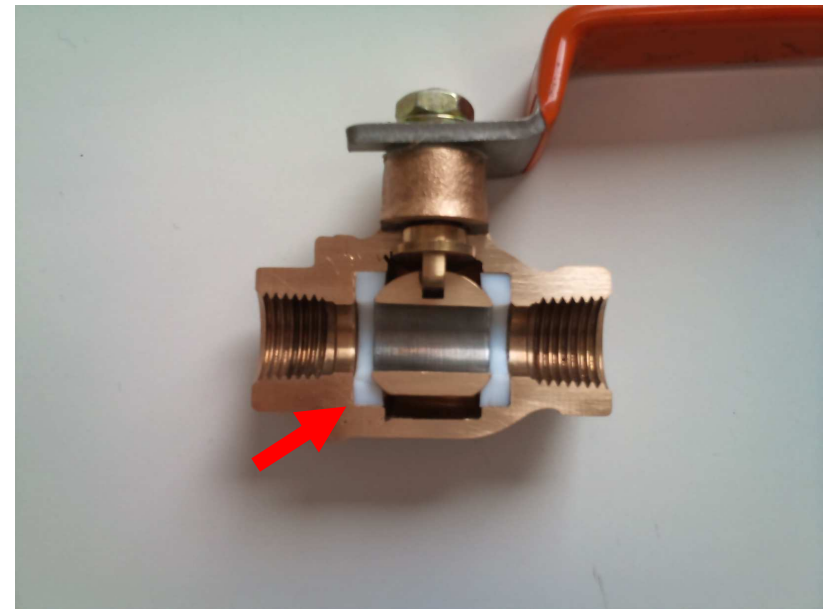
Ⅱ－２ 極低温による危険性② 脆性破壊

＜対策＞

寒剤の移送はなるべく金属性のパイプを使う
冷やされた容器のバルブは暖めてからまわす



樹脂・ガラスは割れやすい



バルブの中には樹脂の部品がある



Ⅱ－3 爆発による危険性①

液化ガスは気化すると約700倍に膨張する。
密閉容器中では蒸発したガスにより
圧力が上昇し容器が破裂する危険性がある。

<対策>

容器内の蒸発したガスを逃がす
急な熱の流入を避ける(火気厳禁)



Ⅱ-3 爆発による危険性②

石狩湾新港

ガス爆発 食品工場半壊

液体窒素 ポンベ 周辺民家が一時停電

【石狩】二十八日午後九時五十分ごろ、石狩湾内石狩新港西一、冷凍食品加工工場「精米総合食品」小西芳弘工場Ⅱで、屋外に設置していた液体窒素ポンベが爆発。大きな音とともに鉄骨造り二階建ての工場がほぼ半壊し、約四百五十平方メートルの面積が崩壊した。崩壊した部分の残骸が周囲の工場に倒れ、中々敷地内や付近に人がおらず、けが人はなかった。

また爆発の影響で工場付近の電柱一本が倒れて高圧線がショートし、同町新港一帯で一時停電した。

また爆発の影響で工場付近の電柱一本が倒れて高圧線がショートし、同町新港一帯で一時停電した。



安全弁を閉止したためにタンクが爆発

1992.8.28 北海道新聞の記事より引用

Ⅱ－４ 酸素欠乏による危険性①

20～21%	正常値
16%以下	頭痛、吐き気、脈拍・呼吸数増加
12%以下	筋力低下、めまい、吐き気
10%以下	意識不明、嘔吐
8%以下	昏睡
6%以下	呼吸停止、痙攣、死亡

← 安全限界(18%)

← 1度の呼吸で失神

酸素濃度と人体への影響

酸素欠乏により脳に深刻なダメージを受けます



Ⅱ-4 酸素欠乏による危険性②



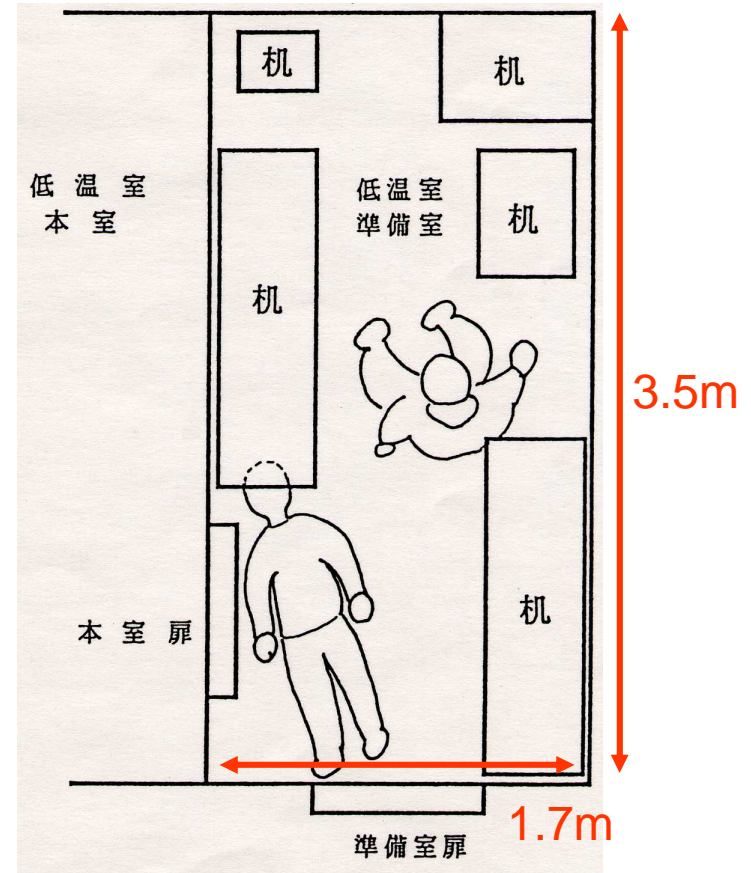
実験中の事故で原因とする北大工学部
応用物理学科の低温実験室前
—10日午後0時30分—
十日午前十一時十分ごろ、札幌市北二丁目八
の北大工学部応用物理学科
の低温実験室で、一
五名で、水の研究実
験のため液体窒素を使って
いた男性二人が倒れた。
同大からの報道によると、
二人は酸素欠乏が原因であ
った。救急隊が駆けつけ、
北大病院へ運ばれたが、二人
は命を失った。
北大によると、二人は同
市南区落川三三六、同大応
手後藤明さんらと、同門北

北大で実験中2人死亡

工学部 助手と大学院生 窒素ガス吸い酸欠

札幌市南坊下と二入
の部屋が上昇したため、
水が解けない程度の寒さ
に達した。液体窒素は、
そのまま投入して、その
液体窒素が酸化して、
ガスを取り除いてから、
採取して使っている。

1992.8.10 北海道新聞の記事より引用



17m³の実験室内に80Lの液体窒素を投入したために
工学部の助手と大学院生の2人が死亡

Ⅱ－４ 酸素欠乏による危険性③

【液体窒素取り出し中の死亡事故】
タンクから窒素取り出し中に退室した。
戻ったときには容器から液体窒素が溢
れ出ており、低酸素空気が形成されて
いた。バルブを閉じるために部屋に入っ
て窒息死したと考えられている。



Ⅱ-4 酸素欠乏による危険性④

＜日常の対策＞

換気扇などの設置

酸素濃度計の設置



＜非常時の対策＞

ドア、窓を開けて換気する

その場からすばやく立ち去る

倒れている人を見ても、あわてて救助にむかわない

単独では行動はしない



Ⅲ-1 容器構造①



断熱の為に真空層内部に貯層がぶら下がる構造なので
絶対に粗雑に扱わないこと



Ⅲ－1 容器構造②

【2004年京都の病院での爆発事故】

倉庫内に設置した**超低温酸素容器**が爆発して10名が軽傷を負った。

原因は容器**ネック部分**に生じた**亀裂**から**真空層**に**酸素**が漏洩し、爆発に至ったものと推定される。



高圧ガス保安協会 事故概要報告より引用



Ⅲ－２ 運搬方法

- ・大型容器は転倒の危険があるので複数で運ぶ
- ・エレベーターでの同乗は避ける
- ・やむを得ず自動車で運ぶ時は換気に注意する
- ・構内循環バスには持ち込み禁止



本当に大丈夫???



Ⅲ－3 利用方法(自加压式容器)



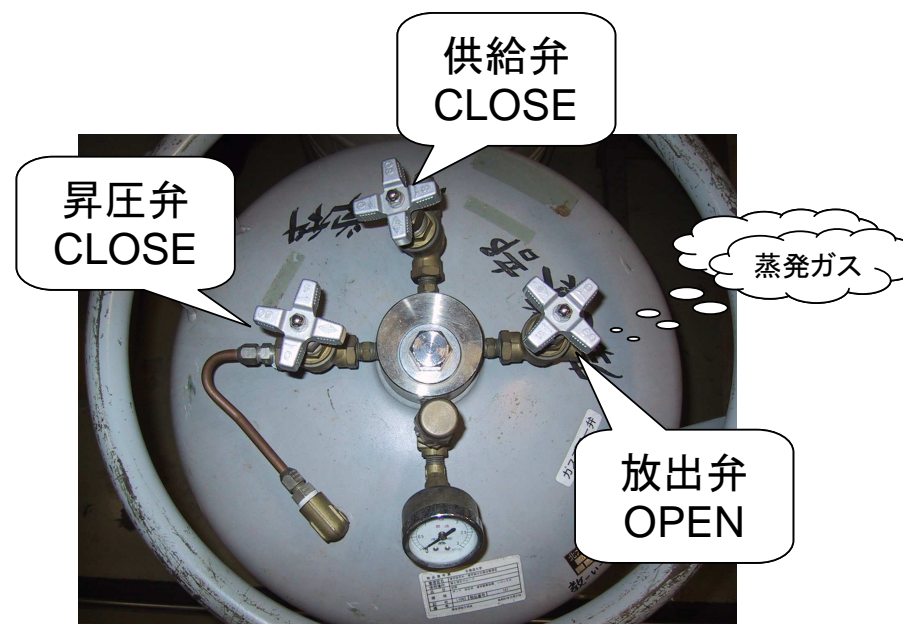
	放出弁	昇圧弁	供給弁
使用時	Close	Open	Open
保管時	Open	Close	Close



Ⅲ-4 保管方法



蓋の穴からガスを逃がす



放出弁からガスを逃がす

長期間保管すると酸素が溶け込む場合があるので
あまり空気に晒さないよう注意しましょう。



おわりに

身近で当たり前を使う物の危険性を十分に認識して
安全に研究活動を行ってください。

液体窒素自動供給室利用者講習は随時受付中です。

<参考資料>

平成17年安全の手引き（北海道大学安全衛生委員会）

高圧ガス保安協会 事故概要報告

北海道大学工学部事故調査委員会中間報告書

高圧ガスの事故に学ぶ(高圧ガス保安協会)

京都府医療用超低温酸素容器の爆発事故 調査報告書(高圧ガス保安協会)

